

三二三〇番

みてぐらを 奈良より出でて 水蓼 穂積に至り

鳥網張る 坂手を過ぎ 石橋の 神奈備山に

朝宮に 仕へ奉りて 吉野へと 入ります見れば

古 思ほゆ

反歌

三二三一番

月も日も 変はらひぬとも 久に経る 三諸の山

の 離宮所